

お名前： _____ 様

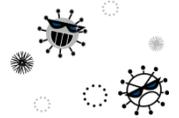
病名： _____



●感染性心内膜炎について

心臓に病気を残している時（弁膜・血管の異常や短絡）、血液内に侵入した細菌が心臓内の病変部に定着、増殖する病気です。症状は持続する発熱（発熱が数日～数週間続く、抗菌薬をやめると再び発熱するという場合は要注意です）、残存する病変悪化のため心臓の症状がでてきたり、また細菌が他の臓器にも散らばり病気を引き起こすことも心配されます。この病気にかかると長期間にわたる入院治療が必要だったり、半数近くの患者さんは手術が必要になることもあります。

このような症状がある場合や、侵襲的な歯科治療・他の病院で手術を受ける際には、ぜひ心臓専門医に相談してください。抗菌薬（抗生物質）による予防が必要な場合があります。



●感染性心内膜炎になりやすい方

- 人工弁（生体弁、同種弁を含む）や心外人工血管を使用した手術をしている方
- 複雑心奇形（単心室、大血管転位、ファロー四徴等）や最終手術まで終了していない方（特にチアノーゼのある方）
- 過去に感染性心内膜炎にかかったことがある方
- 人工物を使用した手術後6か月以内の方（カテーテル治療も含む）

上記以外でも病気が残っているすべての先天性心疾患、リウマチ性弁膜症、僧帽弁逸脱による逆流症、二尖大動脈弁、流出路狭窄のある肥大型心筋症の方も注意が必要とされます。治療・手術により完治している方は心配ありません。

●予防の必要な場合

- 歯科的治療
歯周への処置（抜歯、歯石除去など）、歯の根元に及ぶ深い治療（根尖孔を超える治療）手術矯正用バンドの最初の装着時（ブラケット時は不要）、その他、さまざまな歯科処置がありますので、かかりつけ歯科医にご相談ください。
- 病院で侵襲的な検査や手術を受けるとき
胃腸の検査や泌尿器科・産婦人科で検査を受けるときは、必ずご自分の病名をつけてください。



●日常生活での注意

日頃からの口腔内ケアをおすすめします。ブラッシングやデンタルフロス、またかかりつけ歯科医での定期検診のすすめ。ピアスや刺青（タトゥー）をしないようにしましょう。アトピー性皮膚炎がある方は皮膚ケアをきちんとしましょう。

●歯科処置などの時の予防法（予防的抗菌薬内服）

I 通常の方法

- ・アモキシシリン 小児50 mg/kg（成人2.0g）を治療1時間前に1回内服
量が多くて内服できなければ 30mg/kgを治療1時間前と治療6時間後に2回内服もOK

II 経口で服用できない場合

- ・アンピシリン 小児50 mg/kg（成人2.0g）を治療30分以内に筋注/静注

III ペニシリンアレルギーがある場合（下記のいずれか選択）

- ・クリンダマイシン 小児20 mg/kg（成人600g）を治療1時間前に1回内服
- ・アジスロマイシンあるいはクラリスロマイシン 小児15 mg/kg（成人500g）を治療1時間前に1回内服

IV ペニシリンアレルギーがあり経口で服用できない場合（下記のいずれか選択）

- ・クリンダマイシン 小児20 mg/kg（成人600g）を治療30分以内に筋注/静注
- ・セファゾリン 小児25 mg/kg（成人1.0g）を治療30分以内に筋注/静注
（ペニシリンに即時型アレルギーがある場合、セファゾリンを選択しない）

